

したがって、一応の目標を2.5とし業種及び当該地域周辺の状況に応じて具体的に設定することとした。

環境容量については、さきに述べたようにそれぞれの地域における自然環境の賦存状態を表わすものであるが、グリーンミニマムが設定される地域にあっては、グリーンミニマムと当該地域との面積との積によって、それを求めることとし、この賦存の状態をあらわす単位として、NC(Natural Capacity)を用いることとした。

なお、グリーンミニマムを設定しない地域においては、直接、環境容量は設定せず、当該地域における自然環境質指数と当該地域の面積との積によって求められた数値を、自然環境賦存量を表わすものと考えらるにとどめ、将来、当該地域を他の用途に変更する場合には、グリーンミニマムを設定したうえで改めて環境容量を設定するものとする。

第5節 環境管理

1. 自然環境質指数による環境管理

本計画において算定された自然環境質指数をもとに、自然の保護保全や土地利用などに関する制度を総合的に運用することによって、今後、適切な自然環境に関する行政の推進を図るものとする。

ただし、この自然環境質指数は、当該メッシュの自然環境の現状を索引するという性格が強く、かつ、1平方キロメートルのメッシュ単位に算定した、いわば平均化された数値であり、メッシュ全域が同等の値からなるものではなく、その実態は異なって評価される数値が混在するものである。

このような点を踏まえ、今後の自然環境の保護・保全に当たっては、この指数を手がかりに、各種のデーターによる検討や現地調査によって、個別具体の事例に即して慎重に対処していくものである。

〔「10」と「9」の地域〕

この地域の多くは、山地帯の上部から高山帯にかけて、及び海岸部に多く分布し、原生的自然の状態を維持している地域が多い。このなかでも多様な生物種とすぐれた自然景観を有し、かつ、学術研究の場としても極めて重要であるところは、将来にわたってこれを保存していかなければならない。

この地域の主要な部分はすでに、自然環境保全地域や自然公園の設定がなされているが、こ

れらの地域において、特

区などの設定を進めてゆ

また、今後、自然環境

めてこれを推進する。

〔「8」の地域〕

この地域は、山地帯の

林が繰り返し伐採された

多く生息しているなど身

このなかには、歴史的

でいる谷川や丘陵なども

地域でもある。

このため、この地域に

ていかなければならない

には、緑地環境保全地域

学術調査の成果や都市計

措置を進めていく。

〔「7」～「2」の地域〕

この地域は、広く、県

る地域は、食糧や木材の

養、大気の浄化、野生鳥

役割を果たしている。ま

密接なかわり合いを持

したがって、この地域

ーションなどの機能を

図っていかなければなら

特に、この地域におい

には、緑地環境保全地域

学術調査の成果や都市計

保全措置を進めていく。